

支部便り

2024年度軽金属学会関東支部行事開催報告

Report on the 2024 annual meeting of Kanto Branch of the Japan Institute of Light Metals

萩原 健太

Kenta HAGIWARA

2024年9月4日（水）に工学院大学共催にて、2024年度軽金属学会関東支部行事が工学院大学新宿キャンパスで開催された。今年度は関東支部総会、第10回若手研究者ポスター発表会、講演会が同日開催され、大学・大学院生、高専生、教員に加えて、企業所属の研究者など、若手からシニアまで計80名の会員が本行事に参加した。

関東支部総会では、まず、阿相 支部長より総会の位置づけと今後の在り方に関する方針説明があった。これまで2年に1度開催されてきた関東支部総会は、運営委員会での決定事項を支部会員に直接報告するだけでなく、会員からの意見・要望を聴き、支部活動に反映させる形で、今後も開催していく方針であることが確認された。次いで、2023年度活動実績・決算、2024年度活動計画・収支予算について報告された後、2025年度からの次期支部長に茨城大学 倉本 繁先生が就任することが発表された。総会の最後に関東支部功労賞の授賞式が行われ、阿相支部長より群馬大学 西田 進一先生へ表彰状が手渡された。

若手研究者ポスター発表会では、昨年度を上回る42件の研究発表が行われた。発表は前後半に分かれて、各60分の間、研究発表と質疑応答を通した深い議論が交わされていた（図1）。関東支部に属する大学・高専から、軽金属研究に関するさまざまな基礎・応用研究について発表があり、軽金属材料の進歩とこれからの工業への発展を感じさせるポスター発表会であった。他大学の学生や教員、企業の方々との意見交換を通して得た新たな知見は今後の研究の発展に役立つものになったと思われる。

講演会では、第21回軽金属功績賞を受賞した宇都宮大学 山本 篤史郎先生と、第26回軽金属学会功労賞を受賞したいすゞ自動車株式会社 茂泉 健氏に講演いただいた。山本先生は「個人的異分野融合研究」と題して、次の時代を担う若手研究者に対して、活躍の場をどのように広げていけるか、

研究事例とともに講演いただいた。茂泉氏は「自動車会社における材料屋の役割」と題して、自動車メーカーにおける材料開発の重要性など業務内容の紹介があり、軽金属を研究する若き学生にとって、将来に向けても参考となる話題であった。

講演会後は昨年に引き続き、懇親会も開催された。本会の恒例ではあるが、缶ビールをはじめとするアルミニウム製の缶飲料での乾杯から懇親会は始まり、若手研究者同士の交流が談笑とともに見受けられた。懇親会後半には、本発表会の最優秀ポスター賞、優秀ポスター賞、関東支部奨励賞の発表が行われ、受賞者には賞状と副賞が授与された。本発表会では各発表に対して4名の審査員が評価し、各賞の受賞者を選考した。審査の結果、以下の2名が最優秀ポスター賞を受賞した。

山本 雄太（群馬大学）「ポーラスアルミニウムと熱可塑性樹脂の摩擦圧接時におけるアップセット加圧の高速化」
齋藤 宙弥（工学院大学）「強ひずみ加工された工業用純チタンの結晶粒微細化とシート成形性」

また、石内 健太郎（群馬大学）、松下 雄一郎（群馬大学）、吉永 みのり（東京都立大学）、神田 太郎（千葉大学）、藤原 由奈（芝浦工業大学）、長谷川 八重（芝浦工業大学）の6名が優秀ポスター賞を、門井 洸衛（早稲田大学）が関東支部奨励賞を受賞した（敬称略）。各賞を受賞された皆様をお祝いするとともに、今後の軽金属研究分野でのご活躍を願っている。最後に、ポスター発表会の発表者で集合写真（図2）を撮影し、本行事が閉会した。

来年度の関東支部行事でも、教育機関、研究機関、企業を問わず、多くの方にご参加いただけるよう、関東支部運営委員一同、企画・準備を進める所存である。今回は企業からの研究発表はなかったが、本会が産学を結ぶ交流の場となるよう、次年度は多くの企業からの発表と参加を心待ちにしている。



図1 若手研究者ポスター発表会の様子



図2 若手研究者ポスター発表会発表者の集合写真